



南アフリカ通信

No.5 (2022.11)

JICA 海外協力隊 (2022 年度 1 次隊)
小学校教育 北川裕介



もうすぐ 12 月。だんだんと寒くなり、冬の訪れを感じるころではないでしょうか？

一方、南アフリカは夏（雨季）が本格的にスタートしています。晴れの日、じっとしているだけで汗が出てくるほど暑いんです。雨の日は日本のようなじめじめとした感じはなく少し涼しくなりますが、ムカデや大きなヤスデがよく出てきたり、道が土なので靴がドロドロになったりと、なかなか大変な季節です。

さて、突然ですが、「世界人権デー」という日を知っていますか？

1948 年 12 月 10 日、第 3 回国際連合総会で「世界人権宣言」が採択されました。これを記念して 1950 年からこの日を、人権を守るための活動をするための記念日として定められました。日本では、毎年 12 月 4 日～12 月 10 日の 1 週間を「人権週間」と定めています。岐阜県でも、多くの学校でこの期間のいずれかの日を「ひびきあいの日」として定め、人権について考え、様々な取り組みを行っていますね。

ということで、今回は人権週間に向けて、みなさんが自ら考え行動を起こすきっかけになればと思い、南アフリカの悲しい歴史と人権を守るために立ち向かった人物を紹介しします。



【アパルトヘイト】

アパルトヘイトとは、アフリカンス語で「分離」や「隔離」という意味で、南アフリカで行われていた白人以外の人種の政治的・社会的権利を奪い、居住区まで指定した隔離政策のことです。南アフリカでは長い間、国家規模で差別を正当化し、黒人などの有色人種を苦しめてきました。

具体的には、下記のようなことが行われていました。

白人	黒人・有色人種
<ul style="list-style-type: none"> 参政権がある 環境のよい居住区 高いレベルの教育 衛生管理と医療設備が完備された施設 給料は黒人や有色人種の 6～21 倍 (白人社会では黒人は安価な労働力と見なされていた。)	<ul style="list-style-type: none"> 参政権のはく奪 異なる人種間の恋愛、結婚の禁止 居住地域の限定、分離 (限られた土地に押し込められて生活していた。) <ul style="list-style-type: none"> 身分証明書の携帯を義務付け 施設の利用の制限 (白人専用のトイレや公園に入ったり、街中の白人専用のベンチに座ったりしたら、逮捕された。)

なぜアパルトヘイトが行われるようになったのか。この通信ではすべてを書き切ることは難しいので、気になる子はぜひ調べてみてください。

【ネルソン・マンデラ】



この人種差別（アパルトヘイト政策）に苦しむ黒人たちのリーダーとして、自由・平等・人権・人が人として生きるために声を上げ、戦った人物が「ネルソン・マンデラ」という方です。

アフリカ民族会議のメンバーとしてデモやストライキを通して反対運動を行います。1964 年に国家反逆罪で終身刑を受けてしまいます。しかし、彼の

活動を尊敬する世界中の人々から釈放を求める声があり、27年後に釈放。1991年から活動を再開し、アパルトヘイト撤廃のための憲法改正を成功させ、1993年にノーベル平和賞を受賞しました。1994年には初めて全人種参加選挙が開催され、見事第8代大統領に任命されました。

☆人種差別の歴史を学べるスポット&ツアー☆

【アパルトヘイト・ミュージアム】

南アフリカに存在していた人種差別という事実に向き合い、二度とこのような悲惨な差別が起こらないことを願って2001年にオープンした博物館。人種差別の実態やそれに立ち向かおうとした人々の苦悩、そして1991年のアパルトヘイト撤廃で新しくふみ出した南アフリカの今を知ることが出来ます。人種差別について深く考えさせられました。ここへ訪れて、最初に衝撃を受けたのが入場チケットです。そこには「WHITES (白人)」か「NON-WHITES (非白人)」の文字が書かれています。どちらがわたされるかは購入するまで分かりません。博物館の入り口は2つに分かれており、チケットに記された方の入口から入場します。当時の差別を追体験できるようになっています。このように、肌の色など人種が違うだけで、使う場所が決められ自由を奪われていたと思うと、とても悲しく辛い気持ちになりました。



私は「NON-WHITES」のチケットでした。

【タウンシップ・ツアー】

南アフリカでいうタウンシップとは、アパルトヘイト時代の人種ごとに住み分けさせられていた居住区のことです。たいていの場合、旧黒人居住区のことを指します。せまい未舗装の道をはさみ、バラック小屋が立ち並び光景はあまりにもショックでした。強風が吹くものなら今にも崩れそうな造りでした。タウンシップによっては電気も水道もなく、電気は車のバッテリーを使ったり、数千人で数個の井戸を共有したりしているそうです。タウンシップを案内してくれる人はそこに住む人で、自分たちがアパルトヘイトによって、どのような環境で、どんな生活を強いられてきたのかを話してください。



ソウェト
南ア最大のタウンシップ



1976年6月16日記念碑
暴動で最初の犠牲者になった当時13歳のヘクター・ピーターソンの遺体が運ばれてきた場所にある。



マンデラ・ハウス
1963年に逮捕されるまで暮らしていた家の内部が公開されている。

おわりに・・・

1991年にアパルトヘイト政策は終了しました。しかし、これで全ての問題が解決したわけではありません。心に負った傷はそう簡単に癒えることはありません。南アフリカに限らず、世界中に今も「いじめ」や「虐待」、「インターネット上の人権侵害」、「感染症や障がい等を理由とする偏見や差別」など様々な人権問題があります。誰一人悲しい思いをせず、みんなが笑顔でいられるようにするために、私たちはどんなことができるのでしょうか。人権週間という機会にぜひ考えてみてはいかがでしょうか。

〈参考文献〉
・Free The Children Japan, 「今日は何の日!? 国際デーから世界のことを考えよう!」
(2022年11月23日取得 <https://ftcj.org/we-movement/texts/material-internationalday>)
・KURU77.2021, 「5分でわかるアパルトヘイト! 内容や歴史、マンデラについてわかりやすく解説」, ホンシェルジュ
(2022年11月23日取得 https://honcierge.jp/articles/shelf_story/5628)
・地球の歩き方「南アフリカ」2020~21